著者紹介

Gregor Kiczales
Gregor Kiczales is Professor and NSERC, Xerox, Sierra Systems Chair of Software Design at the University of British Columbia, and Principal Scientist at Xerox PARC.
E-mail:gregor@cs.ubc.ca

Harold Ossher
Harold Ossher is a Research Staff Member at the IBM T.J. Watson Research Center in Yorktown Heights, NY.
E-mail:ossher@watson.ibm.com

Karl Lieberherr
Karl Lieberherr is Professor of Computer Science at Northeastern University in Boston, MA. E-mail:lieber@ccs.neu.edu

Mehmet Aksit
Mehmet Aksit is Professor of Software Engineering and Chair of the Department of Computer Science at the University of Twente, The Netherlands.
E-mail:aksit@cs.utwente.nl

Tzilla Elrad
Tzilla Elrad is a research professor leading the Concurrent Programming Research Group in the Department of Computer Science at the Illinois Institute of Technology in Chicago.
E-mail:elrad@iit.edu

朝枝　仁（正会員）
1991年慶應義塾大学理工学部卒業．1991年日本アイ・ビー・エム（株）入社．2001年よりINRIAに勤務．インターネット・マルチキャスト，ルーティング・アーキテクチャの研究に従事．慶應義塾大学SFC研究所訪問研究員．IEEE Member．WIDE Project Member．

新　善文（正会員）
1991年福井大学大学院修士課程修了．同年（株）日立製作所へ入社．1995年より，ネットワーク機器の開発に携わる．このときよりIPv6の研究開発を始め，今に至る．WIDEプロジェクトメンバ．

石井　裕
1995年にMITメディアラボに準教授として参加し，タンジブル・メディア・グループを創設．タンジブル・ユーザ・インタフェースの研究を創始．コンピュータ科学だけでなく，デザインおよびメディア・アートに大きな影響を与える．2001年MITから終身在職権を授与される．MITに移る前，1988～94年まで，NTTヒューマン・インタフェース研究所において，CSCW研究グループを率い，Team Work StationおよびClear Boardを開発．
E-mail:ishii@media.mit.edu
http://tangible.media.mit.edu/

石田　喬也（正会員）
1964年大阪大学工学部卒業，1966年同大学院工学研究科修士課程修了，応用物理学科専攻．1966年三菱電機入社，以来，情報システム関連技術の研究開発に従事．現在，同社開発本部技師長，本会理事，OECD/BIAC（Business and Industry Advisory Committee to the OECD），Committee on Technology and Industry Chairman, Committee on Information, Computer and Communications Policies Vice-Chairman．IEEE，ACM各会員．

石原　嘉夫（正会員）
1926年生．大阪大学通信工学科を卒業．1950年日本国有鉄道入社．国鉄本社・地方機関で，主として情報通信の業務に従事．その後，三菱電機（株）・日本テレコム（株）に勤務し，現在フリー．著書「新幹線の電子通信システム」．電子情報通信学会，日本交通協会などの各会員．

伊藤　政彦
ソニー（株）ブロードバンドネットワークセンターi-カードシステムソリューション事業部カード企画部統括部長．研究テーマ：非接触ICカードの開発．
E-mail:Masahiko.itoh@jp.sony.com

上原哲太郎（正会員）
昭和42年生．平成7年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程研究指導認定退学．同大学院工学研究科助手，和歌山大学システム情報学センター講師を経て，平成12年より現職．京都大学博士（工学）．

牛島　和夫（正会員）
1961年東京大学工学部卒業．1977年九州大学工学部教授．1996年同大学院システム情報科学研究科長併任．2001年から（財）九州システム情報技術研究所長．本会理事，監事，九州支部長を歴任．本会フェロー．現在，アクレディテーション委員会委員長．専門：ソフトウェア工学，日本語インタフェース．

鵜林　尚靖（正会員）
1982年広島大学理学部数学科卒業．同年（株）東芝入社．現在，同社SI技術開発センター所属．1999年東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系博士課程修了．博士（学術）．

太田　昌孝（正会員）
1959年生．1987年東京工業大学総合情報処理センター助手，2000年同大情報理工学研究科講師．理学博士．コンピュータグラフィクス，UNIX，計算の高速化，文字コード，DNS，マルチキャスト，QoS保証，超高速ルーティングなどの研究に従事．

大野　晋（正会員）
1985年日立ソフトウェアエンジニアリング入社．大型コンピュータのDBMSの開発に従事したのち，品質保証部に異動．テストに頼らずにソフトウェアの信頼性を向上させる方法を模索してプロセスQAに手を染める．プロジェクトマネジメント学会評議員．IEEE-CS，ACM，日本品質管理学会，日本感性工学会各会員．

角田　健男（正会員）
1969年山形大学大学院工学研究科電気工学修士課程修了．同年日本電気（株）入社．コンピュータのハードウェア開発，製品計画に従事．2000年よりNECソリューションズ政策調査部勤務．

河原　章二（学生会員）
昭和53年生．平成13年東京農工大学工学部電子情報工学科卒業．現在，同大学院博士前期課程に在学中．プロセッサアーキテクチャに興味を持つ．

小林　渉
宇宙開発事業団所属，H-IIAロケット・アビオニクス・システムの開発に従事．
E-mail:kobayashi.wataru@nasda.go.jp

宍戸　周夫
1948年生．1971年上智大学法学部卒業．同年日刊工業新聞社入社．出版局編集長，編集局編集委員．1997年よりフリーランス・ジャーナリスト，テラメディア代表．著書「マイクロソフトの真実」，「データウェアハウス」，「エンタープライズ・コンピューティング」など．

鈴木　裕介
宇宙開発事業団所属，H-II/H-IIAロケット・アビオニクス・システムの開発に従事．日本航空宇宙学会会員．
E-mail:suzuki.yuusuke@nasda.go.jp

鈴木　豊
1983年東京理科大学理工学部情報科学科卒業．同年富士通（株）入社．以来，ディジタルPBX，ATM通信システム，光アクセスシステムなどの開発，商品企画に従事．現在，ネットワーク事業本部ネットワークシステム事業部プロジェクト課長．

関口　博敏
1941年生．1966年電気通信大学卒業．以後，東芝情報システム（株）にて主として，リアルタイムシステムのプログラミング設計に従事．以降社内の教育部門に所属して教育事業に従事．現在は中高年の活性化を目的とした業務に従事している．

妹尾　稔
名古屋商科大学経営情報学科教授．情報システム．著書「情報化戦略あなたが主役」，「SE育成読本」．経営情報学会，品質管理学会，プロジェクト管理学会各会員．

土屋　一暁
（株）日立製作所エンタープライズサーバ事業部技師．1990年日立製作所に入社後，一貫してルータの開発に従事．現在IPv4/IPv6ハードウェアルータGR2000の開発を担当．WIDEプロジェクトメンバ．

中條　拓伯（正会員）
1961年生．1989年神戸大学工学部助手を経て，1999年より東京農工大学工学部情報コミュニケーション工学科助教授．1998年より1年間イリノイ大学スーパコンピューティング研究開発センター（CSRD）にて客員助教授．博士（工学）．

並木美太郎（正会員）
1986年日立製作所基礎研究所勤務．1988年東京農工大学工学部助手．1993年～現在同大助教授．1996年から1年間文部省長期在外研究員として米国ノースカロライナ州立大学交換教授．ACM，IEEE各会員．

萩谷　昌己（正会員）
昭和57年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了．京都大学数理解析研究所を経て，現在，東京大学大学院情報理工学系研究科教授．基本的に，演繹的推論を計算上に実装することに興味を持っている．また，最近では，生命情報関連の研究（特に，分子計算）も行っている．

橋本　和孝
日本電気エンジニアリング（株）所属．宇宙搭載システム・機器の開発に従事．
E-mail:k-hashimoto@pz.jp.nec.com

林　伸善
日本電気（株）所属．宇宙搭載システム・機器の開発に従事．電子情報通信学会，計測自動制御学会各会員．
E-mail:n-hayashi@ak.jp.nec.com

平田　真一
1990年北海道大学数学科卒業．同年，日本電信電話（株）入社．主にセキュリティシステム，電子マネーシステムの研究実用化に従事後，現在ICカードプラットフォームの研究実用化に従事．

平鍋　健児
1989年東京大学工学部卒業後，3次元CAD，リアルタイムソフト，UMLエディタなどの開発を経て，（株）永和システムマネジメントにてコンサルタントとしてオブジェクト指向開発を実践．XPの日本メーリングリストXP-jpを運営．翻訳「XPエクストリームプログラミング導入編」等．

広瀬　啓吉（正会員）
1977年東京大学大学院博士課程修了．工学博士．同大新領域創成科学研究科基盤情報学専攻教授．1987年米国MIT客員研究員．音声言語情報処理についての教育研究開発に従事，特に韻律に着目．IEEE，ISCA他各会員．

前川　　徹（正会員）
1955年生．名古屋工業大学情報工学科卒業．1978年通産省入省．機械情報産業局情報政策企画室長，JETRO New Yorkセンター産業用電子機器部長，情報処理振興事業協会セキュリティセンター所長を経て，1999年早稲田大学国際情報通信研究センター客員教授．

間瀬　健二（正会員）
ATRメディア情報科学研究所第一研究室長．インタフェースエージェントと協調メディアの研究に従事．IEEE，ACM，電子情報通信学会，VR学会等各会員．
http://www.mis.atr.co.jp/~mase/

松下　　温（正会員）
昭和38年慶應義塾大学工学部電気卒業，昭和43年イリノイ大学大学院コンピュータサイエンス専攻修了，平成1年より慶應義塾大学計測工学科教授．本会理事，副会長，マルチメディア通信と分散処理研究会主査，グループウェア研究会主査などを歴任．「IT Text コンピュータネットワーク」（オーム社）など著書多数．本会功績賞（2001年5月）．電子情報通信学会および本会フェロー．

丸山不二夫（正会員）
東京大学教育学部卒業，一橋大学社会学研究科博士課程修了，2000年稚内北星学園大学開学とともに，同大学学長．

山本　裕之
1962年1月17日生．1984年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業．1986年同大学院修士課程修了．同年キヤノン（株）入社．1990～92年マクギル大学知能機械研究所客員研究員．1997年より（株）エム・アール・システム研究所出向．同研究所第一研究室室長．2001年よりキヤノン（株）復帰．現在，MRシステム開発センターMR技術第一研究室室長．この間，三次元画像計測・認識，アクティブビジョン，バーチャルリアリティ，複合現実感，画像メディアの研究に従事．ACM，電子情報通信学会，日本バーチャルリアリティ学会各会員．工学博士．

吉田　　壱
1999年大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻修士課程修了．同年，日本電信電話（株）入社．現在ICカードプラットフォームの研究開発に従事．

暦本　純一（正会員）
1986年東京工業大学理学部情報科学科修士課程修了．日本電気，アルバータ大学を経て，1994年より（株）ソニーコンピュータサイエンス研究所に勤務．現在，同研究所インタラクションラボトラリー室長．理学博士．実世界指向インタフェース・拡張現実感・情報視覚化等に興味を持つ．ACM，日本ソフトウェア科学会各会員．1990年本会30周年記念論文賞，1998年MMCAマルチメディアグランプリ技術賞，1999年本会山下記念研究賞受賞．

おふいすらん

冬のスポーツは，寒くて出かけるのが億劫な私にとって，自分でやるより，観る方が好きなものが多い．ソルトレークシティーでの冬季五輪も楽しみにしていたが，フィギュアスケート・ペアやスピードスケート・ショートトラック，スキー距離女子リレーなどで，いろいろな判定問題がまたもや起こったのは残念なことだった．国の代表として何もかも注ぎ込んできたものの成果を出すはずの夢の大舞台で，釈然としない理由のために選手が悔しい思いをしているのを見ると，平和の祭典であるはずのオリンピックも，そして金メダルも何か価値が下がっていくような感じがした．

冬季五輪で私が最も楽しみにしていたのは，女子フィギュアスケート．1984年のサラエボ五輪，1988年のカルガリー五輪で金メダリストになったドイツのKatarina Witt選手を見てからフィギュアファンになった．プロに転向したWitt選手を5年前，国立代々木競技場で行われた国際オープンフィギュアスケート選手権大会で初めて観て興奮したのを思い出す．当時のパンフレットを久しぶりに開いてみると，今季五輪で銀メダル，銅メダルに輝いたIrina Slutskaya選手（ロシア）とMichelle Kwan選手（アメリカ）の10代の頃の写真が載っていた．あの頃観ていた選手がオリンピックに出場しているというのが，外国の選手であってもなんとなく嬉しかった．

今日2月25日はソルトレーク冬季五輪の閉会式が行われている．今朝の新聞でWitt選手（今は選手ではないが）が，閉会式で銀盤を舞うと知り，早速ビデオをセットして家を出てきた．早めに帰って見なくては・・・楽しみだ．

次期冬季オリンピックはイタリアのトリノで開催される．代表を目指すアスリートたちは4年間，また大変な練習の日々を積むのだろう．それにふさわしいドラマチックで感動的な舞台での素晴らしい演技，競技を楽しみに待ちたいと思う．

（湯本祐子／会誌部門）

書　評

Cem Kaner, Jack Falk, Hung Quoc Nguyen（著）
テスト技術者交流会（訳）

基本から学ぶソフトウェアテスト
－テストの「プロ」を目指す人のために－

日経BP社，479p.，4,500円（税別）
ISBN4-8222-8113-2

信頼性のあるソフトウェアを開発するためにソフトウェアテストは不可欠である．特に，少ない予算と人員，厳しい期限で開発する今日のソフトウェア開発では，いかに体系的で能率のよいソフトウェアテストを行うかが重要であり，優秀なテスト技術者が求められている．

そんな折，「Testing Computer Software, Second Edition」の翻訳本である本書「基本から学ぶソフトウェアテスト」がようやく出版された．本書は世界で最もたくさん読まれているソフトウェアテストの実践的な教科書であり，テストについて基礎から学習するのに最適な1冊である．

ソフトウェアテストはその重要性とは反対に軽視されがちである．本書の序文でも触れられているが，大学ではあまりソフトウェアテストについて教えない．教える場合もソフトウェア工学の一部としてさわりを教える程度で，詳細な手法について触れられることは少ない．ソフトウェアテストの重要性を考慮すれば，大学でもソフトウェアテストについてもう少し教えるべきではないだろうか？

本書は大学理工系情報関連学科3年程度の教科書として使われることを想定して書かれている．読者が学びやすいように，ページのレイアウトに工夫がなされており，見開きの左ページのヘッダにそのページがどの見出しの階層に属するか一目見て分かるように表示してある．また，多くの例を用いており，初心者にも理解しやすい内容となっている．本書の構成を以下に示す．

第I部　基本編
　第1章　テストの進め方
　第2章　テストの目的と限界
　第3章　テストの種類と位置付け
　第4章　ソフトウェアエラー
　第5章　障害の報告と分析
第II部　テスト技術各論
　第6章　障害管理システム
　第7章　テストケースの設計
　第8章　プリンタ（およびその他のデバイス）のテスト
　第9章　ローカライゼーション
　第10章　ユーザマニュアルのテスト
　第11章　テストのツール
　第12章　テストの計画とドキュメント
第III部　テストプロジェクトやテストチームの管理
　第13章　開発全体におけるテストの役割
　第14章　ソフトウェアの不都合に対する法的責任
　第15章　テストチームの管理
付録　よくあるソフトウェア不都合

第1章では，経験を積んだテスト担当者が簡単なプログラムの初期テストにどう取り組むかの例を示している．これからテストについて学ぶ読者がテストをする上で何を考えなければならないのかイメージするためには最適だろう．第2章では，現実には完全テストが不可能であることを暴き，テストの目的を明確化している．第3章では，ソフトウェア開発の段階を解説し，各段階で有用なテスト技術（ホワイトボックステスト，回帰テスト，ブラックボックステスト）を紹介している．第4章では，「品質」と「ソフトウェアエラー」を簡単に定義している．第5章，第6章は，障害レポートとそれを管理する障害管理データベースの話題である．第7章では，ブラックボックステストによるテストケースの設計について解説している．テストケースを設計する上で同値クラスや境界条件を理解することは不可欠である．本章では，同値クラスの判定方法を簡単な例を用いて解説している．第8章から第11章では，構成テスト，ローカライゼーション，ユーザマニュアルのテスト，テストツールについて触れている．どの章の記述も具体的で分かりやすい．第12章では，第7章以降の章をまとめ，テスト計画における全体的な目的と方針について解説している．また，テスト資料をドキュメント化する方法についても説明している．第13章は，プロジェクトの各フェーズにおけるテストにかかわる作業について書かれている．現実には，すべての機能の組合せをテストすることはできない．では，「いつ」「どのくらい」テストを行えばよいだろうか？　このことについて本章では議論している．第14章は，一転してソフトウェアの不具合に関する法的責任について書かれている．ソフトウェアの不具合に関する法的責任について知ることは，ユーザからの訴訟などの無用なトラブルを避けるのに役立つだろう．また，ソフトウェアの品質を保証する上で何に注意すべきか分かる．第15章では，テストをアウトソーシング企業に頼んだときの管理法，テスト期間の見積もり方，要員の採用の仕方などについて解説している．圧巻なのが付録である．400種類以上の典型的なソフトウェアのバグを種類別に分類し，解説している．このリストが読者にとって強力なデバックツールにな

るだろう．

本書を読み，私が感じたことは本書が単なる技術書で終わっていないということである．テスト技術だけでなく，対人関係や企業が抱えている政治的な問題についても取り上げられている．多くのテストの技術書が技術的，あるいは学術的な内容だけで構成されている中，技術的な内容だけにとどまらず，ソフトウェアの品質に大きく作用する社会的要因にも触れている本書は非常に新鮮であった．

さて，今まで本書の良い点ばかり述べてきたが，不満な点もある．それは情報が古いことだ．本書の原書の第1版は1988年に発行されている．このため，訳注で補足している部分もあるが，情報が古い部分が多くあり，最近の技術しか知らない読者にはイメージがわかない部分もあると思われる．しかし，テスト方法自体は根本的には変わっておらず，かつ本書は最近注目されているエボーショナリ（進化型）開発プロセスに関するテスト方法にも触れているので，ソフトウェアテストを初歩から学ぶためには十分だろう．

何事もそうだが，特にテストは技術知識があればうまくできるというものではない．多くの経験をして初めてテストのノウハウを身につけることができる．テスト技術を身につけようとする時，実例に富んだ本書がその手助けになることは間違いないだろう．

（保科泰久／山梨大学）

おふいすらん

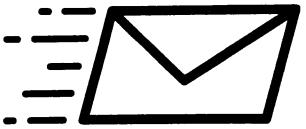
昨年の秋頃に自宅回線をADSLにした．会社ではこれまでPCを使っての仕事が中心であったため，これによりさらにネット生活に拍車がかかり，会社でも自宅でもほぼPC漬けという日々を送ってしまっている．ADSLにしたことの主な利点としては，ダウンロード時間が飛躍的に短いこと，RealPlayerのラジオチューナーで24時間生のライブ放送が聞けること（音楽好きの私にとっては，たまらない！），時間を気にすることなくネットサーフィンができることなどである．また，最近の常套手段として「情報収集はすべてネットで」という方法をとっているが，検索エンジンを上手く使いこなし，いかに目的の情報を素早く探し当てるかということが当面の課題となっている．反対に欠点を挙げると，睡眠時間が減ってしまったこと，メールの返事を書くのに時間がかかること（おもに連絡方法をメールに選択してきた結果なのだが…．），読書や映画鑑賞もあまりしなくなってしまったこと，TVはもともと見ない方だがますます皆の会話についていけなくなってしまったことなどである．

ごく近い将来，外出しなくても日常生活には何ら支障をきたさない世の中になるだろうが，きっと温もりの感じられない淋しい生活だろうと容易に想像できてしまう．バーチャルな世界も好きだが，やはり私は人と人との「心の繋がり」を大切にしてこれからも過ごしていきたいと思っている．

（高田聡恵／管理部門）

◆各種問合せ先　（社）情報処理学会（本部）　※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください．
〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20　芝浦前川ビル7F
Tel(03)5484-3535　Fax(03)5484-3534　http://www.ipsj.or.jp/

担当	E-mail	項　目
総務	somu@ipsj.or.jp	理事会，支部，役員選挙，名誉会員
会員	mem@ipsj.or.jp	入会，会費，変更連絡，退会，在会証明，会員証
経理	keiri@ipsj.or.jp	出納
システム企画	sys@ipsj.or.jp	システム企画，電子化専門委員会
調査研究	sig@ipsj.or.jp	研究会登録，研究発表会，シンポジウム
事業	jigyo@ipsj.or.jp	全国大会，連続セミナ，プログラミング・シンポジウム
国際	intl@ipsj.or.jp	国際会議，IFIP委員会
図書	tosho@ipsj.or.jp	出版物購入
会誌	editj@ipsj.or.jp	会誌「情報処理」の掲載内容，広告掲載，転載許可
論文誌	editt@ipsj.or.jp	情報処理学会論文誌，出版
規格部（情報規格調査会）	standards@itscj.ipsj.or.jp	標準化フォーラム 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8　機械振興会館308-3 Tel(03)3431-2808　Fax(03)3431-6493　http://www.itscj.ipsj.or.jp/



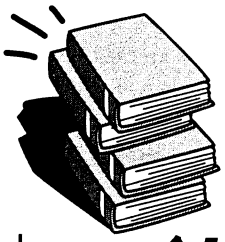
4月号から会告の配布がなくなりますのでご注意ください

本会では，電子化事業の一環として，会告を現在の冊子体から WWW へと順次移行するため，平成 13 年より一部を WWW へ移動してまいりました．

1 年間の試行の結果，会員の皆様への情報提供に特に支障がないものと判断しましたので，平成 14 年 4 月号からは会告の冊子体としての配布を廃止し，その内容をすべて WWW 上でご覧いただくことにいたします．ただし，学会運営上重要な通知事項（役員選挙など）については別途方法でも周知する予定です．

会告を WWW 上に移行することで，会告情報が随時更新されるようになるため，会員の皆様には常に最新情報が入手できるというメリットがあります．また，冊子廃止に伴う経費削減の効果も見込まれます．

これを機会に会員の皆様には，より一層学会活動にご参画いただけるものと期待しております．皆様のご理解とご協力をお願いいたします．



会誌「情報処理」のオンデマンドパブリッシングサービス開始のお知らせ

ー好みの記事を集めてオリジナルの本を作ることができますー

情報処理学会では，会誌掲載記事のデジタルデータとしてのメリットを活かし，会員サービスの強化および会員外への情報提供を積極的に推進したいと考えておりましたが，このたび，コンテンツワークス（株）が運営するオンデマンド出版サービス「BookPark」を利用することにより，コンテンツ単位でのオンデマンド印刷が可能となりましたのでお知らせいたします．

この BookPark のサービスは，指定された複数のコンテンツをまとめて製本し，購入者へ 1 冊単位でお届けするというものです．サービスは有料ですが，当会個人会員は特別価格にて利用できます．

「連載をまとめて読みたい」という方，「自分の専門分野に関する記事を集めたい」という方に最適です．簡単に自分だけのオリジナルの本を作ることができます．

サービスは 12 月 20 日（木）より開始しております．本会 WWW トップページからもリンクを張ってありますので，ぜひ一度お立ち寄りください．

◆◆ 43巻4号以降の有料会告について ◆◆

すでにご承知のとおり，本年3月号をもって別冊会告が廃止になります．今まで有料にて掲載させていただいていた会告につきましては，引き続き本誌巻末に新設します「有料会告ページ」へ掲載させていただきます．料金等は下記をご参照ください．

なお，下記内容以外のものにつきましては，今までどおり広告として取り扱わせていただきますのでご了承くださいますようお願いいたします．

記

■掲載条件

件　名	内　容	掲載単位	掲載料金（消費税別）
論文募集／参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショップ講演会，講習会などの論文募集・参加者募集に限る．	1ページ，1/2ページまたは1/4ページ	（主催・共催） 1ページ　50,000円 1/2ページ　30,000円 1/4ページ　20,000円 （協賛） 広告として取り扱う
人材募集	国公私立教育機関，国公立研究機関，企業の人材募集	10行程度	（国公私立教育機関，国公立研究機関）20,000円 （賛助会員（企業））30,000円 （賛助会員以外の企業）50,000円

■申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください．

■原稿の書き方

●行事次第書：

A4判カメラレディまたはPDFファイル（フォント埋め込み）とします．
（1ページ）　天地260mm × 左右170mm
（1/2ページ）　天地130mm × 左右170mm
（1/4ページ）　天地 65mm × 左右170mm
＊A4判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご留意ください．

●人 材 募 集：

次の項目を明記し，E-mailまたはFax，郵送にてお送りください．
[募集職種，募集人員，（所属），専門分野，（担当科目），応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]
＊なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください．

■申込期限

毎月15日を締切日とし，翌月号（15日発行）に掲載します．

■掲載料金

掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3カ月以内にお支払いください．

■掲載申込先

（社）情報処理学会　会誌担当（有料会告係）
〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20　芝浦前川ビル7F
E-mail:editj@ipsj.or.jp　Tel (03) 5484-3535　Fax (03) 5484-3534

会員募集中

★主な活動内容

- 機関誌の発行　会誌「情報処理」(月刊)
  「情報処理学会論文誌」(月刊)
- 全国大会　CD-ROM論文集発行
- 調査・研究　領域(コンピュータサイエンス，情報環境，フロンティア)
  所属の研究会，研究グループによる発表会・シンポジウム等の開催
  調査委員会による特定課題の調査研究
- 情報処理教育委員会　カリキュラム，アクレディテーション各委員会の開催
- 国際交流　IFIP，SEARCCに加盟．ACM，IEEE，KISS，CSIと提携
- 標準化　ISO/IEC JTC1 情報技術の国際標準開発に参加

情報に関心をお持ちの方でしたら，どなたでもご入会いただけます．
Webページ(http://www.ipsj.or.jp/)からの入会が可能です．

社団法人　情報処理学会
Information Processing Society of Japan
〒108-0023　東京都港区芝浦3-16-20　芝浦前川ビル7F
Tel 03-5484-3535　Fax 03-5484-3534　E-mail:mem@ipsj.or.jp

書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では，会誌「情報処理」に掲載する書評，および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています．

1. 募集対象　次の2種類の記事について，原稿を募集します．
   a) 書　評　－過去2年間に出版された，本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評．
   b) 会議レポート－情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など，時事性が高く，本学会員に広く知らせる価値のある話題．

2. 応募資格　原則として本学会員に限ります．

3. 応募の手続き
   1) 表　題－書評の場合は，著者名，書名，ページ数，発行所，発行年，価格，ISBNを書く．
      会議レポートは，見出しを書く．書評，会議レポートの別を左肩に書く．
   2) 評者名(会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先(住所，E-mai，Faxなど)の記載を忘れずに．
   3) 本　文－書評，会議レポートとも2100字前後で書く．
   4) (必要であれば)参考文献，付録，図，表をつける．

   詳しくは「情報処理学会機関誌原稿執筆案内」(2000年3月号会告掲載 /http://www.ipsj.or.jp/index-j.html)を参照してください．

4. 原稿の取扱い　投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し，採否を決定します．採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります．あらかじめご了承ください．

5. 照会先／応募先　(社)情報処理学会　会誌部門　E-mail:editj@ipsj.or.jp　Fax (03) 5484-3534

海外からの送金方法について

海外からの会費，論文誌購読費，各種行事参加費，各種図書購入費等についてはクレジットカードによる送金をおすすめいたします．下記用紙にご記入の上ご郵送ください（FAX不可）．

If you wish to pay with your credit card, please fill in the following form and mail it back to the Information Processing Society of Japan.

To: INFORMATION PROCESSING SOCIETY OF JAPAN
Shibaura-Maekawa Bldg. 7F, 3-16-20,Shibaura, Minato-ku Tokyo 108-0023, JAPAN
Phone:81-3-5484-3535 Fax:81-3-5484-3534 E-mail:mem@ipsj.or.jp

I wish to pay with my credit card.

Check one: ☐ MasterCard ☐ VISA ☐ American Express ☐ Diners Club

(1) Card number _____ _____ _____ _____

(2) Expiry date _____ / _____

(3) Full name of holder as it appears on the card _____
(Membership Number _____)

(4) Amount _____ Yen

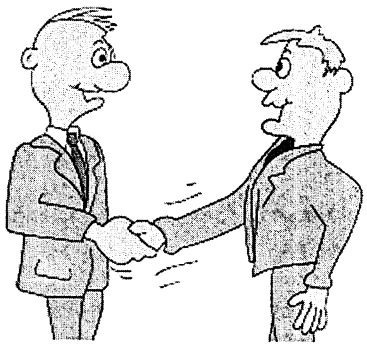
(5) Detail (annual fees, journal, etc.)
_____
_____
_____

(6) Mailing address
_____
_____
(City) _____ (Postal Code) _____ (Country) _____
Phone _____ Fax _____
Date _____ / _____ / _____
Signature
_____

円またはドルの銀行小切手による送金の場合は，次の点にご注意願います．
1. 銀行小切手作成の手間がかかり，2,500円の換金手数料が必要になる．
2. ドル送金の場合は為替相場の変動により常に過不足を生じ，経理上支障がある．

Note: The fees can also be paid by cash or by bank draft. In the case of bank draft, please add the handling charge ¥2,500 to the total amount. We cannot accept personal check.
Remit to: Information Processing Society of Japan
Bank account no.046-1013945
Toranomon Branch, The DAI-ICHI-KANGYO BANK, LTD.

会員の広場



Members' Voice

今月の会員の広場では，12月号へのご意見・ご感想を紹介いたします．まず，特集「ネットワークセキュリティ」に対しては読者の皆様も深い関心を寄せられており，たくさんのご意見・ご感想をいただきました．

■特集としてネットワークセキュリテイを取り上げていただいたおかげで，セキュリティに対するいろいろなアングルからの取り組み方が理解できました．また，最新の情報にも触れることができて喜んでおります．（山口　周）

■ネットワークセキュリティの問題は，従来，組織の問題でしたが，インターネットへの常時接続環境が一般家庭にまで浸透しつつある今日においては，一般市民レベルでも関心を持つ必要のあることがらになりつつあります．今回の特集は，研究としても興味深い論考ばかりでしたし，文章表現も分かりやすかったと思います．（水野光朗）

■最新情報が平易に論述されており，興味深く読みました．（匿名希望）

■ネットワークセキュリティに関する話題は現在自分が直面している問題でもあるので非常に興味深かった．（匿名希望）

■特集「ネットワークセキュリティ」を興味深く読ませていただきました．SFAベースのCRMのように，社内向けアプリケーションにファイアウォールの外からアクセスできるような拡張を施して付加価値を高めるケースが増えています．このような場合，セキュリティ確保のためにどのようなアーキテクチャの変更が必要で，それにより機能・性能がどう変わるのか，あるいは変わらないようにできるのか，という切り口にも興味があります．（西岡健自）

■最近話題になるセキュリティ関連の特集で全体的に参考になりました．目次ページの「編集長から」に書かれていますように，技術的な対策はかなり進んでいることは理解できましたが，なぜ実際にはセキュリティ対策の実施が進まないのかという観点からの記事も欲しかったです．ぜひ続編をお願いいたします．（匿名希望）

■冬場に流行したコンピュータウイルスやアメリカのテロのためか，セキュリティ技術が一層脚光を浴びている．セキュリティに関する政治的・技術的な側面からの啓蒙と約束事作りは，特集でも触れられている通りやはり大切である．しかし，せっかく作り上げた標準化規格も，その成立の背景から，一般市民には理解が難しいものとなっている．もっと社会システム，企業システムに立ち入った内容にしてもらいたい．（小金沢雄一）

■特集「ネットワークセキュリティ」は大変参考になりました．セキュリティには終わりがなく，技術だけでどうにかなるものでもありません．今後もさまざまな角度から取り上げてほしいと思います．（高橋英一）

■「侵入検知システムに関する研究の現状」では，現在使われている検知アルゴリズムとその性質が明確に示されていたので大変分かりやすかったです．（匿名希望）

次に，特集「モバイルインターネット」に対しては以下のご意見をいただいております．

■「モバイルインターネット」は，技術解説として興味深く読みました．無線通信特有のプロトコルスタックを必要とする理由やオールIP化への課題などを解説する記事は有用でした．無線がブロードバンド通信の上位レイヤに影響しサービス（あるいはIT産業）に変革をもたらす，というテーマ記事を今後期待したいと思います．（匿名希望）

■「ストリームメディア通信サービス」は個人的にも関心があり，興味深く読みました．特に，今後のモバイル通信サービスで重要な位置を占めると思われるMPEG-7方式について，トランスコーディング時の画質劣化防止の観点から述べられており，非常に参考になりました．（匿名希望）

■最近特に注目していた内容を取り上げているこの特集には興味をひかれました．本誌でコンテンツに関する話がとりあげられるのも時代の流れだと感じます．（匿名希望）

コラムに対しては次のようなご意見が寄せられました．

■「外資系IT企業の生き残り作戦」は，企業の在り方だけでなく人と人との関係をも示しているようで，面白い内容でした．情報通信技術の進歩で世界がますます狭くなっていく中でも相変わらず，国があり，文化が違い，自分の周囲の世界を中心に我々は物事を考えてしまいます．技術や情報のグローバル化はおそろしい速さで進展していきますが，誰と協力してやっていくかを選択するにあたっては，やはり物理的な近さというものは無視できないのかもしれません．（匿名希望）

■日本のIT企業がかなり厳しい状況になっている中，外資系IT企業の日本法人は健闘しているところが多いようです．「外資系IT企業の生き残り作戦」にはIBMとSGIの事例が記載されていますが，他の外資系企業にも同様の悩みを抱えているところが多いのではないでしょうか．ある外資系企業に人事制度をお尋ねしたところ，基本は本国の方法論を組み込みながらも，日本独自の制度をきっちりと運用されていました．そのときは働く人が日本人なのだから，そうなのかと納得していましたが，今回の記事を見て，本社から人事に介入されないための施策でもあるのではと興味深く読ませていただきました．（濱　久人）

■「CATVを取り巻くアメリカでのコンテンツ・ビジネス」では，日本ではなかなか広まらないCATVがアメリカでいか

Members' Voice

に拡大していったかをうかがい知ることができ興味深く読めました．普及が期待されるディジタルTVもアメリカの現状に比べて日本ではまだまだで，今後どうなるのか興味のあるところです．（匿名希望）

インタラクティブ・エッセイ「なぜ「メディア」なのか」に対しては「メディア」というものについて多くの示唆を受けたとのご意見をいただきました．

■「メディア」という語が氾濫しつつある現在，なぜ「メディア」について議論するのか，その根本が問われています．その意味で，今回のインタラクティブ・エッセイは，興味深いものでした．（水野光朗）

■インタラクティブ・エッセイを感心して読みました．「メディア」を「地球環境という物理的資源の限界を目の当たりにしながら，人間の知，社会の知という知的資源の開発に将来をかけて」みるための手段として掲げていただいたことで，ただ面白いということで取り組んでいたIT技術の勉強・実践が，未来のために取り組まなければならないものとして感じられるようになりました．（山本　誠）

■最も興味を持って読ませていただいた記事は，横井氏のインタラクティブ・エッセイ「なぜ「メディア」なのか」であった．巷では「メディア」という言葉が大変目につくようになり，大学における新学部・新学科，さらには専門専修学校等における科目にさえ多く見かけるようになった．しかし，そのほとんどは「メディア」の前後に他の名詞が付加された複合語であり，その意味するところははなはだつかみにくい．私は，このような使われ方をする「メディア」の具体的な意味について，常々疑問を持ちつづけていたのであるが，横井氏のエッセイを拝見したのを機に「メディア」についてあらためて考えてみた．辞書的には「メディア」という言葉ははなはだ広い意味を持つもので，この言葉を使う人の専門分野に応じて違った解釈がなされるようだ．つまり，理工科系出身者にとって「メディア」とはコンピュータ，情報技術，そして情報通信技術のことであり，一方文科系やアート系出身者にとっては，コンテンツそのものを意味するらしい．「メディア」の意味するところについて，私なりに理解し，結論を得ることができたと考える次第である．（時岡廣行）

その他，本誌に関して以下のようなご意見・ご感想をいただきました．

■文中で数式を使っている論文が見られるが，できるだけ数式は使わないでほしい．（匿名希望）

■翻訳記事について，もう少し日本語としてこなれた訳文にならないものでしょうか．一工夫必要がと思います．（水野光朗）

最後に，今後取り上げてほしいテーマについて以下のようなご要望をいただいております

■ASPやサーバセンター運用に関する記事が読んでみたいです．（匿名希望）

■耐タンパ技術の現状に関する解説を希望します．（高橋英一）

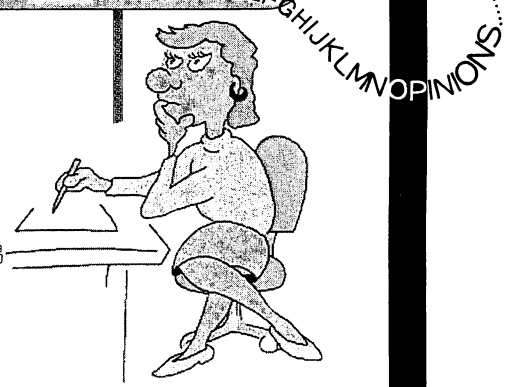
■画像認識技術の研究・産業応用における最新の動向に関する記事を希望します．（匿名希望）

■インターネット社会におけるアンダーグラウンドの現状を一度取り上げていただきたいと思います．昨今，違法コピー，違法課金サイトなどのネットワーク活動が問題視されていますが，その実態の把握はなかなかに困難なものがあります．原稿の収集が難しいかとは思いますが，よろしくお願いいたします．（匿名希望）

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会ウェブページでも受け付けております．今後もよりよい会誌を作るため，ぜひ皆様のお声をお寄せください．

【本欄担当　田近一郎，井上恵介／書評・ニュース分野】

ご意見をお寄せください！！！



皆様にとって会誌をより役立つものとするため，
・記事に対する感想，意見
・記事テーマの提案
・会誌または学会に対する全般的な意見，提言
・その他，情報処理技術についての全般的な意見，提言
など，自由なご意見，ご感想をお待ちしております．
なお，「道しるべ」については
<URL:http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/michishirube.html>
でこれからのテーマ案を募集しており，いただいたご意見をまとめております．
ご意見，ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします．掲載に際しては，編集の都合上，ご意見に手を加えさせていただくことがあります．あらかじめご了承ください．

応 募 先　〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20　芝浦前川ビル7F
情報処理学会　会誌担当　E-mail:editj@ipsj.or.jp　Fax(03)5484-3534
http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4303.html

IPSJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文／応募締切	掲載頁	担当
第7回ゲーム情報学研究会	農工大	3月15日（金）	当日のみ		43-2 会8p	研
第66回情報学基礎研究会	国立情報学研究所	3月15日（金）	当日のみ		43-2 会8p	研
第32回デジタル・ドキュメント研究会	国立情報学研究所	3月15日（金）	当日のみ		43-2 会8p	研
第83回アルゴリズム研究会	科学技術振興事業団	3月15日（金）	当日のみ		43-2 会9p	研
第38回プログラミング研究会	電通大	3月15日（金） ～16日（土）	当日のみ		43-2 会9p	研
第79回情報システムと社会環境研究会	KDDI	3月18日（月）	当日のみ		43-2 会9p	研
東海支部　「専門講習会：情報ネットワークのセキュリティ」	ホテルプラセオ名古屋	3月18日（月） ～19日（火）			43-1 会17p	海
第43回グループウェアとネットワークサービス研究会	香川大	3月22日（金） ～23日（土）	当日のみ		43-2 会10p	研
第107回マルチメディア通信と分散処理研究会	通信総研	3月28日（木） ～29日（金）	当日のみ		43-2 会10p	研
北海道支部　平成14年度支部総会	北大	4月18日（木）			43-3 会8p	北
北海道支部　「情報処理北海道シンポジウム2002」	北大	4月18日（木） ～19日（金）			43-1 会18p	北
第107回グラフィクスとCAD研究会	情報処理学会	4月19日（金）	当日のみ		43-3 会4p	研
四国支部　平成14年度支部総会	徳島大	5月 9日（木）			43-3 会8p	四
東海支部　平成14年度支部総会	愛知厚生年金会館	5月10日（金）			43-3 会8p	海
北陸支部　平成14年度支部総会	北陸先端大	5月10日（金）			43-3 会8p	陸
中国支部　平成14年度支部総会	中国電力	5月10日（金）			43-3 会8p	中
九州支部　平成14年度支部総会	九大	5月10日（金）			43-3 会8p	九
First International Workshop on Entertainment Computing（IWEC2002）	幕張	5月14日（火） ～17日（金）		12月15日（土）	42-11 会21p	事
東北支部　平成14年度支部総会	東北大	5月15日（水）			43-3 会8p	東
関西支部　平成14年度支部総会	大阪市内	5月17日（金）			43-3 会8p	西
第44回通常総会	ホテルJALシティ田町	5月20日（月）			43-3 会4p	総
グラフィクスとCADシンポジウム	早大	6月20日（木） ～21日（金）		3月15日（金） 必着	43-1 会14p	研
マルチメディア，分散，協調とモバイル（DICOMO2002）シンポジウム	西伊豆土肥温泉	7月 3日（水） ～5日（金）		3月11日（月） 必着	43-1 会14p	研
DAシンポジウム2002	遠鉄ホテル	7月22日（月） ～24日（水）		3月8日（金） 必着	43-1 会15p	研
画像の認識・理解シンポジウム（MIRU2002）	名工大	7月30日（火） ～8月 1日（木）		2月28日（木）	42-12 会17p	研
情報教育シンポジウム Summer Symposium in Sanda（SSS）2002	関西学院	8月21日（水） ～23日（金）		5月8日（水）	43-3 会5p	研
Intelligent Information Processing（IIP-2002）	カナダ モントリオール	8月25日（日） ～30日（金）		1月28日（月）	42-11 会22p	事
オブジェクト指向2002シンポジウム	日本科学未来館	8月28日（水） ～30日（金）		4月8日（月）	43-2 会15p	研
FIT2002	東工大	9月25日（水） ～28日（土）		6月20日（木）（査読付き） 7月1日（月）（一般）	43-3 会6p	事
Asia Pacific Conference on Computer Human Interaction（APCHI 2002）	Beijijg, China	11月1日（金） ～4日（月）		4月20日（土）	43-3 会7p	事

論文誌投稿締切	発行予定月	論文／応募締切	掲載頁	担当
論文誌特集号「グループウェアとネットワークサービス」	平成14年11月	3月15日（金）	42-10 会22p	論
論文誌特集号「e-Japan時代のインターネット／ 分散システムの構築・運用技術」	平成14年11月	3月29日（金）	42-12 会17p	論
論文誌特集号「インタラクション技術の革新と実用化」	平成14年12月	4月12日（金）	42-11 会23p	論
論文誌特集号「高速ネットワークとマルチメディア アプリケーション」	平成15年3月	6月21日（金）	43-2 会15p	論
論文誌特集号「コラボレーションアートとネットワーク エンタテイメント」	平成15年2月	6月28日（金）	43-3 会8p	論

Webページ（http://www.ipsj.or.jp/）更新情報 －What's Newより－

■2002年2月1日
・平成14年度「役員・代表会員選挙：候補者名簿」

■2002年1月31日
・情報処理学会アクレディテーション講習会－情報および情報関連分野のアクレディテーション受審のために－（2002年3月15日開催）のおしらせ

■2002年1月29日
・論文誌（ジャーナル）投稿用キーワードが改訂されました

■2002年1月25日
・「業績賞」の新設について
・平成14年度「役員改選」「代表会員選出」および「支部役員改選」について
・第470回理事会報告

記1）カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています．
記2）研究会の発表申込締切は開催日の90日前です．
記3）担当欄の記号は次のとおりです．研: 調査研究，事: 事業，国: 国際，論: 論文誌，編: 会誌，総: 総務，経: 経理，会: 会員，規: 情報規格調査会，北: 北海道支部，東: 東北支部，海: 東海支部，陸: 北陸支部，西: 関西支部，中: 中国支部，四: 四国支部，九: 九州支部．
各行事についての問合せ等は担当までお願いします．
記4）掲載頁欄の記号は次のとおりです．本：本誌，会：会告（付録），全大：全国大会プログラム（付録）

ご意見をお寄せください！

【4月10日頃までにお出しください】

宛　先　（社）情報処理学会　モニタ係（下記のいずれからも送付できます）
http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4303.html　Fax(03)5484-3534　E-mail:editj@ipsj.or.jp
（E-mailで送信される場合は，10-1-aのようにコードでお答えください）

［コード］

1. ご氏名

2. ご所属　　Tel.（　　）　　-

3. E-mail:

4. 業種：（a）企業（サービス業）　（b）企業（製造業）　（c）研究機関　（d）教育機関（大学・高専など）
（e）学生　（f）その他 …… 4-

5. 職種：（a）研究職　（b）開発・設計　（c）システムエンジニア　（d）営業　（e）本社管理業務
（f）会社経営・役員・管理職　（g）教官／教員（大学・大学院）　（h）教職員（小・中・高校・高専など）
（i）学生　（j）その他 …… 5-

6. 年齢：（a）10代　（b）20代　（c）30代　（d）40代　（e）50代　（f）60代以上 …… 6-

7. 性別：（a）男性　（b）女性 …… 7-

8. あなたはモニタですか？：（a）はい　（b）いいえ …… 8-

9. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります．その場合：
（a）実名可（氏名のみ掲載）　（b）匿名希望 …… 9-

10. 今月号（2002年3月号）の記事についてのあなたの評価をご記入ください．
（あなたの評価は年度のBest Author賞選定の際の資料となります．評価は以下の5段階評価でお願いします．）
［a…大変参考になった　b…よい　c…普通，どちらとも言えない　d…悪い　e…読んでいない］

特集：仮想と現実の融合
- 複合現実感 …… 10-1-
- 実世界指向インタフェース …… 10-2-
- タンジブル・ビット …… 10-3-
- インタラクティブ・アートにおける仮想と現実 …… 10-4-

XP（EXtreme Programming）：ソフトウェア開発プロセスの新潮流 …… 10-5-
AOPにおけるアスペクトについて議論する …… 10-6-
IETF：IETF Internet Areaの動向 …… 10-7-
インターネットアクセス通信技術の現状 …… 10-8-
Source Specific Multicastによる新たな通信アーキテクチャ …… 10-9-
「メディア統合」を展望したマルチキャスト映像ネットワークの構築 …… 10-10-
欧米の研究・教育用テストベッドの開発動向 …… 10-11-
Simultaneous Multithread（SMT）アーキテクチャの現状と今後 …… 10-12-
H-II Aロケット用誘導制御計算機について …… 10-13-
ICカード技術の現状と課題 …… 10-14-
非接触ICカード技術とその応用 …… 10-15-
キーボード文字配列：迷走とその反省 …… 10-16-
研究会たより：情報処理学会の終焉？ …… 10-17-
SEの知恵袋：ソフトウェア開発におけるコミュニケーション問題 …… 10-18-
本当のインターネットをめざして：情報通信革命 …… 10-19-
米国インターネット事情：インターネットに黄金はあったのか？ …… 10-20-
現代・コンピュータ市場：CRMに挑戦せよ！ …… 10-21-
道しるべ：音声合成研究への招待 …… 10-22-
インタラクティブ・エッセイ：21世紀日本の産業再生はできるか …… 10-23-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください．

12. 著者への質問・今後取り上げて欲しいテーマ・また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマなどありましたらお書きください．

■編集室■

本号の特集記事「仮想と現実の融合」は，ここ数年盛り上がりを見せている「実世界指向」と呼ばれる一連の研究をご紹介するものである．計算機によって生成された仮想世界と，ユーザの目の前の現実世界を関連づけて扱うことで，計算機世界のみの "VR（Virtual Reality)" では限界のあった「日常生活」とのかかわりや，より直感的な操作が可能となる．

このような研究領域が出現した背景には，計算機やネットワークの能力向上だけでなく，加速度センサや磁気センサに代表される，各種センサ技術の向上がある．むろん，現状のセンサ技術はまだ発展途上であり，特に仮想物体と現実物体との位置合わせ（registration）に必要な高精度位置測定技術の実現が待たれている．将来，センサ技術の発達と共に，各種部品の小型化が進み，身の回りのあらゆる物体に1mm角の超小型無線タグが備わるようになれば，世界中の「モノ」はすべて計算機ネットワークに組み込まれ，仮想世界と現実世界の区別はあいまいになっていくだろう．これぞ「ユビキタス」な世界である．

なお，本特集は，前編集委員の椎尾先生（現ジョージア工科大）の「置き土産」企画であった．引き継ぎをしてから発行まで1年もかかってしまったが，何とか発行にこぎつけられたのは，著者（特にゲストエディタを引き受けていただいた暦本さん）と事務局の方々，ならびに度重なる編集委員会サボリにもかかわらず辛抱強く待っていただいた編集委員諸氏のおかげである．この場を借りてお礼を申し上げる．

（福本雅朗／本特集エディタ）

次号（4月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください．

「特集」インターネットと自動車

インターネット自動車概要／インターネット自動車の地理情報サービス／プローブ情報システム（IPCar）プロジェクト／Internet ITSプロジェクトの概要／Internet ITSプロジェクト（実験編）／国際動向

「特集」e-Learningの最前線

e-Learningとは何か／e-Learningの要素技術と標準化／高等教育におけるe-Learning－バーチャル・ユニバーシティの登場－／企業におけるe-Learning－導入の効果－／e-Learningを支える政策と今後の展望

解説

XP（EXtreme Programming）：ソフトウェア開発プロセスの新潮流 －後編：XP実践事例の紹介－……平鍋健児

インターネットアクセス通信技術の現状　後編：無線技術 ……鈴木　豊

連　載　IETF／特許に関する話題／プログラム・プロムナード

コラム　アメリカITまわりの話題／研究会たより／20世紀の名著名論／モバイルは今

会員募集中!!

▶ITの最新情報，研究発表の場の提供を通じて，あなたのお役に立ちます．

詳しくはWebサイト http://www.ipsj.or.jp/ をご覧ください

申込／照会先　社団法人 情報処理学会
〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
Tel(03)5484-3535　Fax(03)5484-3534　E-mail:mem@ipsj.or.jp

今一番新しい研究分野は何かな？

IT時代をリードしたい！

そうだ，情報処理学会に入ろう！

掲載広告カタログ・資料請求用紙

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は，必要事項をご記入の上，E-mail:sei@ss-com.co.jpまたはFax.03-3368-1519へご請求ください．

「情報処理」　月号をみて

広告主名	製品名	希望項目※	その他要望事項

※希望項目：A購入希望，B担当者から連絡・訪問希望，Cカタログ希望

お名前（フリガナ）

勤務先　　所属部署

所在地　（〒　　-　　）

TEL（　　）　　-　　FAX（　　）　　-

ご専門の分野

広告のお問合せ・お申込みは・・・　広告総代理店（株）精機通信社へ

発　行	社団法人 情報処理学会
発行部数	30,000部
体　裁	A4判
発行日	毎当月15日
申込締切	前月10日
原稿締切	前月20日
広告原稿	オフセット用ポジフィルム
原稿寸法	1頁　天地260mm×左右180mm
	1/2頁　天地125mm×左右180mm
雑誌寸法	天地297mm×左右210mm

お問合せ・お申込みは
広告総代理店
（株）精機通信社　Tel.03-3367-0571
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-16-13
Fax.03-3368-1519　E-mail: sei@ss-com.co.jp

■広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	330,000	—	—
表3	275,000	—	—
表4	385,000	—	—
表2対向	300,000	—	—
表3対向	265,000	190,000	155,000
前付1頁	250,000	165,000	135,000
前付1/2頁	—	—	80,000
前付最終	—	—	148,000
目次前	—	—	148,000
差込（A4判70.5kg未満 1枚）	275,000		
差込（A4判70.5kg～86.5kg 1枚）	350,000		

＊上記料金はポジフィルム納入による料金です．
＊版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます．
＊断切広告は上記料金の10％増です．ただし，表4は不可．
＊上記料金には消費税は含まれておりません．